

TEXTILE CIRCULAR NETWORK

一般社団法人

Textile Circular Network

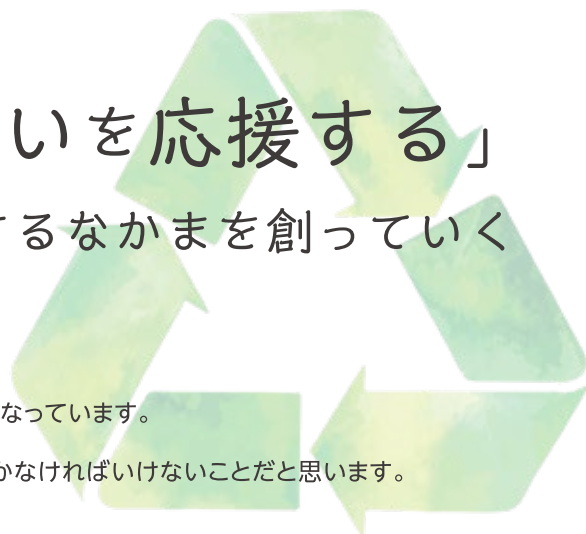


TC  
net

Textile  
Circular

# 「衣類のもったいないを応援する」

## 衣類の MOTTAINAI を応援するなかまを創っていく



衣類の作りすぎ、そして着古されて衣類の廃棄が社会問題となっています。

いまの地球環境を考えた時に、生産者、消費者とも考えて行かなければいけないことだと思います。

この問題に対し、具体的に考え、取り組んでいく。

そんな、なかまを創っていくために今回、テキスタイル・サーキュラー・ネットワークをつくりました。

2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016年から2030年までの国際目標であるSDGsへの取り組みが加速される中、各産業分野においてサーキュラーエコノミーシステムの構築が急がれています。

しかしながら、繊維製品に関してはその多くが廃棄処分されており、リニアエコノミーから脱していないのが現状です。

その理由は色々考えられますが、一番の問題は経済合理性のあるリサイクル手段が見いだせていないこと、および使い捨てて社会に慣れてしまった国民性であると思います。理由はともあれ世界の風潮は「使い捨て」から「循環」に大きくシフトせざるを得ない状況です。

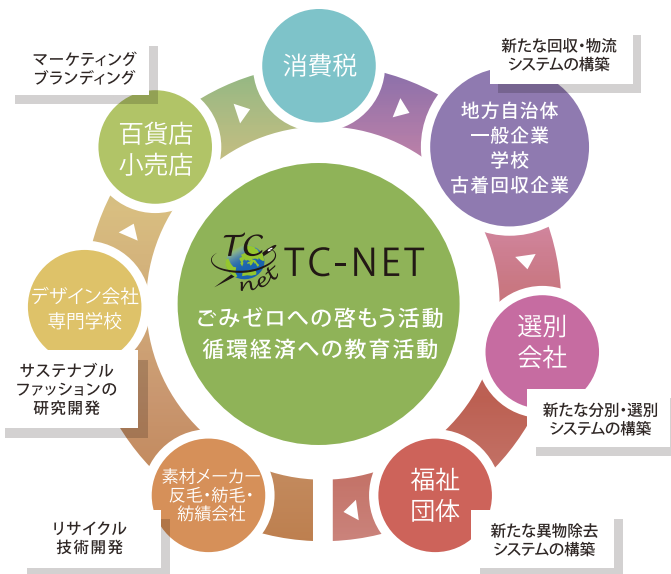
そこで当法人では衣料を中心とする繊維製品の循環によるゼロエミッションを実現するために単なるリサイクル手法の検討だけでなく、環境に優しい衣料・繊維製品の在り方（材料、構造、ファッションなど）、とことん使い切るための一手段としてのリユースに最適な回収システムの構築、回収製品をベースとする衣料品以外の新たな付加価値のあるモノづくり等に関連する異業種ネットワークを構築することによって推進したいと思っています。

昨今の急速なデジタル化の発展により製造から販売まで衣料・繊維製品を取り巻く環境も大きく変化し、産業構造そのものが変化してきています。

既存概念に囚われることなく新しい発想で繊維廃材と向き合っていければと思います。

## ▶ サービス

- 専用回収ボックスの提供
- 安価な回収・輸送システムのコーディネート
- 異物除去システム(福祉団体)コーディネート
- 分別・選別手法の提案
- リサイクル手法の提案
- サステナブルファッションのコーディネート
- アップサイクル手法のコーディネート
- マーケティング、ブランディングのコーディネート
- 繊維製品以外のリユース、リサイクル手法のコーディネート
- ごみゼロへのPR、啓蒙活動



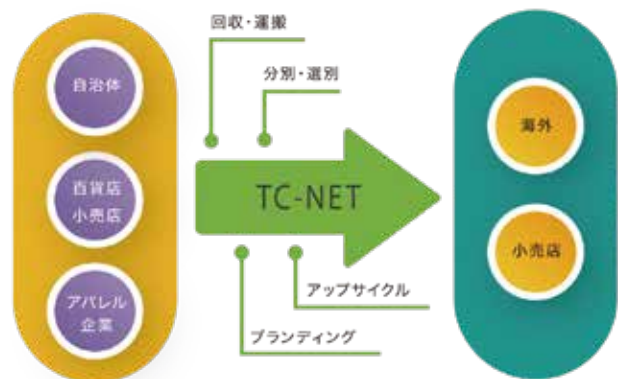
## ▶ 繊維製品のリサイクル

回収した衣料から新たな衣料を生み出す  
コーディネートをします

## ▶ 繊維製品のリユース

回収した衣料品の再利用をコーディネート  
します。

- 小売り
- 再生繊維サステナブルファッション
- サステナブルアップサイクル
- ブランディング



# GREETING

理事長

木村 照夫（京都工芸繊維大学 名誉教授）

当法人では衣料を中心とする繊維製品の循環によるゼロエミッションを実現するために、単なるリサイクル手法の検討だけでなく、環境に優しい衣料・繊維製品の在り方（材料、構造、ファッションなど）、とことん使い切るための一手段としてのリユースに最適な回収システムの構築、回収製品をベースとする衣料品以外の新たな付加価値のあるモノづくり等を関連する異業種ネットワークを構築することによって推進したいと思っています。

昨今の急速なデジタル化の発展により、製造から販売まで衣料・繊維製品を取り巻く環境も大きく変化し、産業構造そのものが変化してきています。既存概念に囚われることなく新しい発想で繊維廃材と向き合っていければと思います。



副理事長

臼谷 喜世彦（大津毛織株式会社代表取締役）

昨今、衣料から衣料へのリサイクルに対する関心が高まってきています。いろいろな素材によってリサイクルの方法は違います。しかし、リサイクルするためにはすべて回収して選別、そして下処理をする必要があります。いま日本において、製造業の現場がどんどん廃業となっています。そんな中、リサイクルする上で前提となるこのような産業はさらに縮小している現状にあります。また、リサイクルをし、そして使っていくにあたってはこれまでのあたりまえの、品質に対する要求が大きな障壁になっています。このようなどうやって作るか、どうやって使えるようにしていくか。こんなことを多くの仲間と作り、活動を活発にしていきたいと思っています。



副理事長

泉谷 康成（ファイバーシーディーエム株式会社代表取締役）

我が国で、リユースやリサイクルに利用される衣料品は全体の4割にも満たず、6割は焼却処分されていると言われてしています。これらの廃棄衣料品を減らしリサイクル資源として活用していく動きが、ヨーロッパをはじめ国際的に加速しています。

これらの点で、政府や自治体も大きな転換期を迎えていると感じますが、我々民間企業が今後取り組むべき課題は多く、個々の企業だけで解決することは容易ではありません。

様々な業種の企業、団体がネットワークでつながりオールジャパンで社会を変えていく、そういう活動を通して貢献していきたいと思っています。



常務理事

## 小西 和孝（㈱ルールメーカー代表取締役）

関東方面の営業担当として、2023年春の葛飾区との協定締結を皮切りに1年間、関東方面の50以上の自治体を訪問してきました。各地の故衣料品回収の状況、実態をお伺いする中で、数え切れないくらいの気付きがありました。

組成調査の結果でも、まだまだ可燃ごみに混入している衣料品の比率が多いという悲しい事実は、一方では、このマーケットは、これからもっと伸びしろがあるという事実でもあります。

ヨーロッパで起こっていること、起こりつつあることは、遅かれ早かれ日本においても起こり得ます。その来たるべきXデーからの来訪者のごとく、これからも関東方面を中心に、各自治体、企業、団体に注意喚起を行っていきたいと思います。「今でしょ？」と。



理事

## 井上 真理（神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授 博士(学術)）

衣食住の中でも、衣生活は文化を背景として人間のみが営むものです。繊維製品は、長いサプライチェーンを要することで環境負荷が大きいと言われていますが、これらは、これまでの人類の技術の賜物でもあります。ゼロエミッションを実現するためのリサイクル手法も含めて更なる人間の知が問われています。自治体、様々な業種の企業、団体の皆様の知を結集して、今の時代だからこそその新しい常識を作っていきたいと思えます。

私自身は繊維製品の着心地、使い心地の良さを数値化して評価する研究を行っていますので、繊維廃材から新しく生まれ変わった繊維製品の価値づくりに貢献したいと考えています。



理事

## 川西 佳慶（社会福祉法人泉大津みなと会 理事長）

現在、全国に障害をお持ちの方が通う就労継続支援B型事業所は1万3,828か所あるといわれています。その就労継続支援B型の利用者は、令和2年3月時点で約27万人とされています。しかもその全国平均工賃(B型)は16,507円と以前と低いのが現状です。

しかし障がいのお持ちの方の生産力はこんなものではありません。

私たちは繊維リサイクルの異物除去作業を通して工賃を倍増することを実現出来ています。この取り組みを発信していき、日本の繊維リサイクルの一端を福祉の力を集結することで担っていきたいと考えています。



理事

## 福田 新之助（上田安子服飾専門学校 副校長／産官学連携推進室 室長）

これまで、つくり変えたり再構成するには、たいそうな想像力とテクニック・そして時間がかかるものですから、これをすっ飛ばして、大量生産で安価な商品を作り続けているのです。人々は新品=豊かさ注目し、それが価値あるものとしたのでしょう。その反動で買いたいがために次々に捨てる時代が続いているのです。

私たちはオートクチュール技術の延長上で、服づくりの伝統を持つ学校です。ファッションを職業として目指す若者を中心とし教育する学校ですが、基礎から学び展開まで指導をします。そして、新しい創造を促してゆく教育です。今後新しい創造の領域には再生素材での展開が必須です。と共に、リメイクできるニュアンスや技術力が必要です。素材に価値あるシルエットやデザインをどう与えれば素敵かを、繊維廃材を通じて実学で伝えてゆきたいと私たちは考えています。



## 「繊維to繊維」

### 東京都葛飾区



◀連携協定式

令和5年3月31日、東京都葛飾区と「繊維to繊維」で連携協定を締結しました。

自治体と一般社団法人で連携・協力する例としては、全国初となります。

他にも杉並区など、都内各自治体と環境イベントを通じて衣料品の回収に取り組み、「繊維to繊維」の連携を拡大していきます。

## 立命館大学「Rits CLO (リツクロ)」

令和5年10月TC-Netは、立命館大学公認の学生団体「Rits CLO (リツクロ)」とファイバーシーディーエム株式会社(大阪府泉南市)とで連携協定を締結し、同茨木キャンパスA棟およびB棟に衣料品の回収BOXを設置しました。

今後もTC-Netは「RITS CLO」が展開するアパレル資源循環問題の啓蒙活動やアップサイクル品の開発活動を応援していきます。



## 関西大学

令和4年11月より関西大学千里山キャンパスの正門横のインフォメーションセンターに古着のリサイクルBOXを設置しました。その後も高槻キャンパス、国際プラザなどへも回収BOXの設置を拡大しています。今後も学生さんと「衣料品の廃棄問題」に関して一緒に活動を広げていきます。

# 法人概要

設立	令和4年4月1日
法人名	一般社団法人Textile Circular Network
理事長	木村 照夫
本社所在地	〒595-0025 大阪府泉大津市旭町17番24号
メールアドレス	manager@textile-c-n.com
賛助会員(法人) (2024年3月末現在)	帝人フロンティア株式会社 日本通運株式会社 学校法人上田安子服飾専門学校 協同組合関西ファッション連合 株式会社イー・ディー 株式会社フランス屋本部c-n.com
協力	エイチ・アンド・エム ヘネス・アンド・マウリッツ・ジャパン株式会社

## SDGsの取り組み

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



ゴミの無い社会を目指します



すべての人に健康と福祉を



適切なモノづくり、使用を心がけます



質の高い教育をみんなに



CO2の排出量を減らします



省エネルギーに貢献します



不法投棄を防ぎます



新しい雇用を生みます



自然を大切にします



新しい技術を開発します



異業種が連携します

REBUILDING

CIRCULATION  
keep saying still

DEVELOPMENT

contradiction and arrogance

*redefinition of value*

wealth

KEEP ROLLING

SOLIDARITY

VIVID POWER

To live means to turn

INNOVATION

embodied memory

*If you break it cleanly,  
you can fix it*

Nature

PASS THE NEEDLE